双葉通信【第 223 回】（人生は旅人№19）“ふくしまに恋をして　福島人に”　20240920

上田　勉

大川小学校―教職員 10 人、生徒 74 人が犠牲に

大川小学校は、北上川の河口から約 3.7km 上流に位置し、海抜は 1m12cm、海には面していません。1985 年に第一小学校と第二小学校が統合されて、今の大川小学校が建設されました。小学校の周辺には、震災前には約 150 件の集落がありました。

2011 年 3 月 11 日午後 2 時 46 分、東日本大震災が起きました。北上川をさかのぼって来た津波は、多くの木材などを運んできて、北上大橋の橋脚に引っかかって堰となって、その結果北上川の津波は堤防を乗り上げました。

防災無線や消防車からは、「大津波警報が出たので高台に避難してください」との警報が鳴っていました。また、避難で集まってきた住民からも、「山へ逃げよう」という声がありました。スクールバスも避難の用意をしていました。しかし、先生の指示で、生徒達は約 50 分間校庭に留まっていました。「先生、山へ逃げよう」と言った生徒がいましたが、「静かにしろ」と逆に注意されました。小学校の隣は裏山です。裏山では毎年 3 月にキノコを植える実習が行われていて、子供達も容易に登れます。

しかし、50 分後に避難したのは、山ではなく橋の堤防の方にでした。また、避難した道も道路ではなく、幅 1m の通リでした。6 年生から 1 年生までの子ども達が、1 列でしか避難できません。亡くなった子供達のうちで、1 年生は 34 人です。避難を開始してから約 1・2 分後に津波にあいました。

教職員 13 人中 10 人、生徒 108 人中 74 人（内 4 人は行方不明）が犠牲になりました。被災して助かったのは、教員 1 人・生徒 4 人だけです。東日本大震災の津波では、多くの子ども達が津波で亡くなりました。しかし、亡くなった子供たちは、親が引きとって家へ帰った子供達で、学校で亡くなったのは、大川小学校だけです。学校管理下における最大の災害となりました。

１0 月 10 日、語り部の佐藤さんの話を聞くことができました。

佐藤さんは大震災当時は女川中学校の教師をしていて、3 日後に奥さんと息子さんが佐藤さんの避難所に会いに来たそうです。佐藤さんは「やー、みんな無事だったのか」と声を掛けたら、奥さんが「(娘の）みずほの遺体が見つかった」と言って、その場で泣き崩れたそうです。佐藤さんは教師だったので、生徒は無事でいるとばかり思っていて、奥さんの言葉を聞いても、何が何だか分りませんでした。

後日、佐藤さんが大川小学校へ駆けつけると、ブルーシートの上に子ども達が並べられていました。安らかに眠っている子供もいたら、怪我をしている子供もいました。その間にも、新しい子どもの遺体が運ばれて来ます。みずほちゃんには、おばあさんが作ってくれた「6 年　佐藤みずほ」の名前札が付いていました。子ども達の遺体の傍には、ランドセルが並べられていました。子ども達の遺体はその後、トラックで遺体安置所へ運ばれました。みずほちゃんが家に帰ることはありませんでした。

佐藤さんは言います。「みずほは朝、行って来ます」と言って学校へ行った。しかし、「ただいま」の声はなかった。子ども達には、「行って来ます」「ただいま」の挨拶をすることを勧めているとのことです。この場所は、「過去を振り返る」場所ではなく、「未来を拓く」場所にしたいとのことです。

【津波は校舎の１階まで来た】

【並べられたランドセル一傍のブルーシートに子ども達の遺体が並べられていた】